

前年度（令和6年度）の改善方策について実行した改善結果

翠と溪の学び舎 世田谷区立尾山台中学校
校長 永野 祥夫

1 報告から読み取れることについて

【成果として】

- ①生徒・保護者ともに学校行事や部活動への評価が高い。
 - ・小学生への「部活動体験Ⅰ」や、年度末に行っている「部活動体験Ⅱ」（本校に入学を予定している児童への呼びかけ）を進めることで、その結果として評価が高い。
 - ・また、部活動は、本校の特色として上位に位置づけており、教職員も進んで顧問を引き受ける体制ができている。
- ②学校生活は、生徒にとって達成感がある。
 - ・生徒会活動を中心に、生徒が日頃から関心の強い事柄や領域に対し、タイムラグなく対処する体制が整っている。
 - ・日々の学校生活が充実できているかどうか、クラス担任や各学年主任が、毎週の定例会にて報告することで、生徒の達成感につながっている。

【課題として】

- ①保護者へ本校の指導の重点が十分に伝わっていない。
 - ・各学年だよりや学校だよりを通じて、教育活動の周知に取り組んでいるが、確実に保護者へ伝わっていない現状がある。
 - ・今年度は、特にホームページやすぐる機能を活用しながら、少しでも取り組み内容を保護者や地域への発信を進める。
- ②地域への情報提供が十分に伝わっていない。
 - ・保護者への周知と同様で、紙面にて広報を進めてはいるものの、学校の活動状況を十分に周知できていない。
 - ・ホームページでの発信をさらに進めるとともに、学校運営委員会やおやじの会での発信力を高め、情報共有できる場を増やす。

2 報告を受け、今年度の学校経営方針への位置づけについて

- ①自分のよさや可能性を信じながら、何事にもチャレンジする。
 - ・学習活動を基本に、与えられた諸活動に対し、積極的に取り組もうとする意欲を引き出し、何事にもポジティブにとらえさせる。
 - ・日頃から活動している取り組みを大切にさせるとともに、特にチャレンジしたい活動にアプローチさせる環境を設定させる。

②保護者・地域の方との連携を深め、生徒指導を包括的に進める。

- ・地域行事に積極的に参加させるとともに、PTAやおやじの会の出店に、ボランティア活動として活動させる。
- ・地域の青少年育成活動に、定期的にかかわる計画を事前に立て、保護者の確認のもと、諸活動に従事させる。

③困難にもあきらめず、最後まで粘り強くやりぬく生徒の育成。

- ・各教科係や各委員会活動等、各クラスでの役割分担について、一人一役を必ず割り当てさせ、一年間を通し、確実な取り組みをする手立てを作る。
- ・部活動の活動において、与えられた目標をしっかりとらえさせ、各部員がもっている力を確実に発揮させる。

④地球の一員として、自ら行動すると共に、SDGs 目標を「自分事」とする。

- ・昨年度までの取り組み目標として、「SDGs 目標」を「自分事」にする取り組みに対して、どこまでどう達成しているかを生徒自ら検証させる。
- ・「SDGs 17 目標」をどれだけ認知しているかを確認させ、その「態度表明」として「SDGs バッチ」を希望生徒に貸与。次の段階＜各個人の取り組み目標＞の決定に向けた意識作りをさせる。

⑤夢をかなえてくれる手立てがたくさんある学校。

- ・夢をかなえるのはむずかしいが、その手立てをたくさん作り、その機会を生かしながら夢を実現させるためのアプローチを進める。
- ・特に、特別活動においては、生徒が達成感を感じる機会を多く設定するとともに、達成した際は、記録に残し、成果がすぐにわかるようにする。

3 次年度の方針について

①昨年度（またはそれ以前）との変容を比較するために、引き続き同様項目のアンケートを実施。

- ・これまでのアンケート項目を見直し、昨年度より、より実態がつかめるようにした。このアンケート項目を続けて、実態把握をより明確にする。
- ・また、アンケート回収率を高めるために、返信用封筒での回収対応をより多く設定するなどして、回収率を高める。

②評価の分析および、編集を学校関係者評価委員会に引き続き依頼を行い、本校への学校経営方針の指標としていく。

- ・学校関係者評価委員が3名欠員だったため、今年度はその3名の欠員を補充した。このことにより、各委員の分析力を有効に活用したい。
- ・今後、学校運営委員会に吸収合併を見通して、現在実施している「アンケート実施方法」など、簡略化できるようにしておく。